

C-41 厚手木綿布の地直しについて

都立立川短大 岡田陽子 ○吉沢厚子 中井悦子

目的 厚手木綿布は洋服の素材として最近とくに歓迎されているが、その取扱の上洗たくによる収縮が問題となっている。これについては、裁断前に充分な地直しを行い、地直しの1つの目的である地詰めの効果をあげる必要がある。そこで実際に洗たくによる収縮はどの程度か、又従来の地直しの方法で適當かつ充分な効果が得られるかどうかについて検討した。

方法 厚手木綿布8種、ポリエステル・レーヨン混紡布2種を材料として、洗たくによる収縮の度合い、3種の地直しの方法による地詰め効果と凡合いの変化について測定。①洗たく条件 浴比1:50, 温度 $40^{\circ}\pm 2^{\circ}\text{C}$, 弱アルカリ性洗剤 濃度0.1%, 2槽式脱水洗濯機にて10分間洗たく後1分間脱水として、10, 30, 50, 100, 200, 300分毎に試料を採取。②地直しの方法 I. スケームアイロン使用($10\text{ sec}/10\text{ cm}^2$) 1昼夜放置後測定。II. 一定の水分を与えて一定時間放置後アイロンかけ(布の重量の30, 50%の水を霧吹きレビニール袋に入れて各々15, 30, 120分間放置) III. 一定時間水漬後自然乾燥してアイロンかけ(水温 $20^{\circ}, 50^{\circ}, 80^{\circ}\text{C}$, 各々15, 30, 60, 120分水漬)

結果 洗たくによる収縮については、ポリエステル混紡布は当然として、木綿布では比較的質地の布に収縮が小さい。よこ方向に比べてたて方向は回を重ねる毎に収縮率が増加し10分洗たく後で2~5%, 300分後で4~8%であった。地詰め効果については、I<II<IIIの順である。(方法間に有意差あり) III法においても10分洗たくの収縮率のほぼ1/2程度の効果であった。(たて方向)